

# 野外調査安全マニュアル (Ver. 2.0)

国士舘大学文学部地理学教室

このマニュアルは、国士舘大学文学部地理学教室で実施される野外での調査・実習・巡検等の全般に関する安全対策マニュアルです。ゼミや教員ごとに行われるより専門性の高い野外活動については、さらに別途に示される指針に従って、十分な安全対策を行ってください。

## 1. 一般的な注意事項

- ・ 野外調査にはさまざまな危険な要素がありますが、**危険性を予測して十分な対策を行うことにより、その大部分を避けることができます。**
- ・ **調査中だけでなく、移動中・休養中・宿泊中の事故にも十分に注意してください。**
- ・ 野外調査には、事前に**体調を整えて、歩きやすい靴・行動しやすい服や鞆**で参加してください。また、**持病の薬や健康保険証（コピー可）、通信手段としての携帯電話等を必ず携帯してください。**

## 2. 移動中・調査中の注意事項

- ・ 野外調査では、**移動中の事故**がとくに危険です。他大学では、林道からの車の滑落等の移動中の死亡事故が、少なからず発生しています。そのほか、山道を歩行中の滑落事故（重症）の事例もあります。
- ・ **本地理学教室主催の調査・実習・巡検では、学生の自動車やバイク等による参加は禁止します。**
- ・ **交通量の多い道路での徒歩による移動や調査では、車に轢かれないよう十分に注意してください。**
- ・ とくに**都市における夜間の調査**においては、交通事故や不審者などに十分に注意してください。
- ・ **水難事故**にはとくに注意してください（危険な場所では**ライフジャケットの着用が必須**です）。他大学では、海での潜水調査中における事故や、川の浅瀬での調査中における転倒事故（いずれも死亡）が発生しています。下述のような休養中の事故例もあります。
- ・ 道に迷わないよう事前に十分な情報収集を行うほか、**地形図**などの適切な地図を持参してください。山間部や谷あい等では**携帯電話の電波が入らない場合**もありますので、その点にも留意してください。
- ・ 班別の行動中などに道に迷ってしまった場合は、主催者に連絡をして落ち着いて行動してください。
- ・ 班別の行動中などに万一事故が起こってしまった場合は、適切な**応急処置**（知識がない場合は安易には動かさない）をして、**救急車**等呼んだのち、主催者指定の連絡先に直ちに**連絡**してください。

## 3. 休養中・宿泊中の注意事項

- ・ 野外調査では、不慣れた場所で疲れているためか、**休養中や宿泊中における不慮の事故**が発生しやすいので、十分に注意してください。他大学では、休養日の遊泳中における浅瀬での水難事故やホテルの高層階からの転落事故（いずれも死亡）、繁華街での歩行中の交通事故（バイクによる、重傷）などが発生しています。
- ・ 緊急時に携帯電話が使えるように、**携帯電話の充電やバッテリー残量**についても留意し、休憩中のむやみな使用や宿泊時の充電忘れに注意しましょう。

#### 4. 野外調査全般における上記以外の注意事項

- ・ **熱中症対策**：炎天下では十分に水分をとり、風通しのいい日陰で早めに休息してください。とくに登山をする場合には、次の計算式を参考に**持参すべき水分量**を計算して下さい。脱水量 (ml) = 体重 (kg) × 行動時間 (時間) × 5 (体重 50kg の人が 5 時間行動するなら 1,250ml 必要)。
- ・ **落雷対策**：雷雨がありそうな場合は、早めに安全な屋内等に避難してください。万一野外で雨宿りせざるをえない場合は、平坦地では低い姿勢を保つほか、高木の直下は避けてください。
- ・ 調査地によっては、次のような生物にとくに注意してください：**ハチ (とくにスズメバチ類)**、**毒蛇** (他大学では調査中に**ハブ類**に噛まれた事例が複数あります)、**野犬** (野犬に襲われた事例は本学を含めて数多くあります)、**クマ** (出没情報の事前収集が必須です。遭遇の危険性がある場合は、クマ鈴とクマスプレーの携行が必携です)、**イノシシ**、**ダニ** (他大学等ではダニに噛まれて病原体を媒介された事例が複数あります)、**ヒル**、**毛虫**、**ウルシ類** (ウルシかぶれの被害は全国で頻発しています)
- ・ 国内でもっとも危険な野生生物は**スズメバチ類**です。一匹でゆっくり飛び回っているのは偵察行動なので、接近してきてもあわてて追い払うなどの刺激を与えないでください。そのうちにいなくなります。複数の個体が攻撃的にまとわりついてくる場合は巣が近いので危険です。刺激を加えないよう細心の注意を払いつつ、その場から静かに離れましょう (ハチは速く動くものに興味をもつため)。予防策は、ハチが警戒する黒い衣服を着用しないこと、香水や果実臭を避けることなどです。7～10月はとくに注意してください。

#### 5. 学生主体の調査における注意事項

卒業論文やレポートの作成のために学生が個人として行動する場合は、とくに次の諸点に注意してください。

- ・ よく考えて余裕のある**調査計画**をたててください。野外調査時はいつでも助けが呼べるとは限りません。**緊急時に安全に避難ができるような方法・ルート等**についても、計画段階から考慮しておきましょう。
- ・ **調査計画の届出**：海・山や海外などにおいて一定の危険性を有することが予想される調査を行う場合には、調査計画の概要や調査終了予定の日時などについて、事前に担当教員に連絡してください。とくに登山が必要な調査の場合には、**登山届**を確実に関係機関および指導教員に提出してください。
- ・ 計画の見直し：**天気予報**を十分に注意し、必要に応じて**計画の見直しや変更**を行ってください。調査を始めている場合でも、危険性が高くなったら**中止や中断の判断**をすることが、きわめて重要です。
- ・ 海・山など緊急時の対応が難しい土地での野外調査では、**単独行動はせず**、同行者とともに行動してください。
- ・ 野外調査期間中は、**良好な体調の維持**にとくに留意してください。
- ・ 調査内容に応じて、**非常食や救急用品などの必要な装備**を十分に用意してください。
- ・ これまでに他大学で多く発生している**移動中・休養中の事故**や**水難事故**には、くれぐれも注意しましょう。

#### <付録：野外調査における安全対策以外の注意事項>

- ・ 調査地では、通行の邪魔をしない、私有地に無断で立ち入らないなど、他人の迷惑にならないよう十分に配慮して行動してください。
- ・ とくに現地で聞き取り調査やアンケート調査を行いたい場合は、事前に教員からの指導を十分に受けてください。これらの調査を安易に行うと、相手に多大な迷惑をかけてしまう恐れがあります。
- ・ 調査中に現地の方から「何をしているのか？」と尋ねられた場合は、所属と調査目的を告げて丁寧に対応してください。
- ・ 喫煙をする場合は、休養時間中に限り、十分にマナーを守って行ってください。山火事の発生にはとくに注意してください。